

# 一刻も早い「安楽死」の法制化を

5

脚本家

橋田壽賀子



た、がんになってホスピスに入るのも、無理な治療や延命はせずに、緩和医療で痛みを取り除いてもらえるので、いいなあと思っています。それから在宅ケアの場合同も、無理に延命せず安らかに死ねるような治療方針を立ててくださる医師がいるそうなので、私は在宅ケアの先生にはゴマをすっているんです(笑)。

しかし、突然、認知症や寝たきりで、自分の意思を伝えられない状態になってしまったら、どうすることもできません。だから私は頭がしっかりしているうちに一筆書いて、「認知症になったと思ったらすぐ教えてね」と周囲にも言っています。家族や弁護士との立会いのもと本人の意思で一筆書き、それが悪用されない仕組みを整えたいうえで、安楽死できるように法制化されればいいと願います。

私は子供もなく、主人にも27年前に先立たれ、家族はいません。あとはどうやって死ぬかを考えるだけで

私が死に方について考えたのは、昨年5月に転んだことがきっかけでした。頭に血がたまり、額の神経が切れて眉が上がらず、いまでも顔は歪んだままです。なかでも脳内にできた血だまりは吸収されないことがあるそうで、医者から脳出血になるかもしれないからと

厳重に言われました。結局、CTを撮ると血だまりは消えていたのですが、こんななんでもないケガが原因で死んじゃうことがあるんだ、と実感したのです。

まだしも、自分の意思を伝えられなくなったら大変です。人の役に立てず、したいこともできず、身体も思うように動かせず、頭も働かせられない。私はそんな状態で生きていたくないと思います。

老衰で眠るように安らかに死ねたら理想的です。ま

